発信人 日本国特許庁(国際調査機関
-------------	--------

光信人 17年17月77 (日本)	
出願人代理人	REC'D 3 1 MAR 2005
藤野 清也 様	WPO
あて名 〒 105-0001 東京都港区虎ノ門 2 - 7 - 7	PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2)
東京都位にルント12 虎ノ門中田ビル4階	(PCT規則43の2.1) 発送日 (日.月.年) 29. 3. 2005
出願人又は代理人 の書類記号 ASAHI-49	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
PC1/ P2003/ 001202	優先日 (日.月.年) 29.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' C07D401/12	, A61K31/4375, A61P9/00,
A 6 1 P 4 3 / 0 0 出願人 (氏名又は名称) 旭化成ファー	マ株式会社
それを裏付けるための文献及び説明 第VI欄 ある種の引用文献 第VI欄 国際出願の不備 第VI欄 国際出願に対する意見	る新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、]
際予備審査機関がPCT規則66.102(b)の規定に基づいたいに対していた場合を除いて、この	調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 で国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさ 見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
63月又は優先日から22月のうちいりれが短く関すり な場合は補正むとともに、答弁書を提出することができ	
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照	
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	と参照すること。
見解語を作成した日 14.03.2005	(ASTROX ATME) 4P 9167
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP)	特許庁審査官(権限ののる職員)
郵便番号100-8915 東京都千代田区閥が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3492

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

国民	R 利利 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
園 見解の基礎				
	2に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成され	た。		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
この見解書は、 それは国際調査	語による翻訳文を基礎として作成した。 のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の	言語である。		
	Land land land	アミノ砂炉列に関	UT.	
の国際出願で開 以下に基づき見解	示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はア 書を作成した。	くり設品が行		
タイプ	配列表		-	
-	配列表に関連するテーブル			
フォーマット	一 			
•	コンピュータ読み取り可能な形式			
.e. (1) (1 1) 11 4	出願時の国際出願に含まれる	•		
,提出時期		n 担出さわた		
,	□ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式に	こより延山ですが		
	この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式に			
上 た配列が出席	この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式に 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され 別表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頃時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提出 唐の提 は
○ さらに、配列 た配列が出別 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提出
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提出 書の提 品
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提出 きの提 品
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提出
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提ら なった。
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提は 書の提 は
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提 は きの提 と
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提出 の提出
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提 は か は
ー た配列が出版 あった。	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され	れた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1.くは追加1	して提 は か
ー た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	1.くは追加1	して提出 きの提 品
ー た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	1.くは追加1	して提出 きの提 と
ー た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	1.くは追加1	して提出 きの提 と
ー た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	1.くは追加1	して提出 は
ー た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	1.くは追加1	して提出 と と
ー た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加い	しまの提出
た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 項時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加い	して提出
た配列が出版 あった。	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加い	しまの提出
を配列が出版 あった。 補足意見:	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加しい旨の陳述で	しまの提出
を配列が出版あった。 補足意見:	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加しい旨の陳述で	しまの提出
を配列が出版あった。 補足意見:	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加しい旨の陳述で	しまの提出
た配列が出版あった。 補足意見:	□ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出され □ 表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に 頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え の関係に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超え	れた 提出した配列若 とる事項を含まな	しくは追加しい旨の陳述で	しまの提出

それを裏付る文献及び	רביחמי.	
1. 見解		
新規性(N)		有 無
進歩性(IS)	請求の範囲 1 - 4 1 -	有 無
産業上の利用可能性(Ⅰ	A) 請求の範囲 <u>1-4</u> 請求の範囲	有
2. 文献及び説明		
文献1	2 2 7 5 8 1 A,(旭化成工業株式会社),	
1986. 10 特許請求の範囲	D. 09 田、産業上の利用分野、第2頁右下欄化合物(1)	
文献 2 J P 61-	152658 A,(旭化成工業株式会社),	
	7. 11 囲、産業上の利用分野、第5頁左上欄化合物(60)	
文献3	3/162824 A1, (Elaine S. Krul et al) 4.28、特許請求の範囲	

(1) 請求の範囲1-4について

請求の範囲1-4は、国際調査報告書で引用された文献1-3によって、進歩性 を有しない。

文献1または2には、スルホン基を有するイソキノリン誘導体が、血管拡張剤、 狭心症治療薬等の予防治療薬として有効であることが記載されている。

文献3には、シクロオキシゲナーゼー1を含んでなる炎症関連の心臓血管系疾患 の治療または予防方法が記載されており、心臓血管系疾患には、バイパス手術に伴 う炎症が含まれること、当該方法には、ファスジル (fasudil) 等の血管拡張剤を 併用し得ることことが記載されている。

文献1-3に記載の発明は、心臓血管系疾患の予防治療という共通の技術分野に 係るものであって、文献3の記載から、同一の薬が、心臓血管系疾患の一つである バイパス手術に伴う炎症にも適用し得ること、併用される薬ではあるが、ファスジ ル(fasudil)が、心臓血管系疾患の予防治療に使用されることが読みとれる。

したがって、文献1または2に記載のスルホン基を有するイソキノリン誘導体 を、文献3の記載のとおり、バイパス手術に伴う炎症の心臓血管系疾患の治療また は予防に使用することによって、請求の範囲1-4に係る発明を導くことは当業者 にとって容易である。

発信人	日本国特許庁	(国際調査機関

完治人 口不图刊刊 (图8/14年88/87)	
出願人代理人	REC'D 3 1 MAR 2005
藤野 清也 様	WIPO BOT
あて名 〒 105-0001 東京都港区虎ノ門2-7-7 虎ノ門中田ビル4階	PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]
)尼ノ門中田 こん 4 個	^{発送日} (日.月.年) 2 9. 3. 2005
出願人又は代理人 の書類記号 ASAHI-49	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/001102 (日.月.年) 27. (優先日 (日.月.年) 29.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ C07D401/12 A61P43/00	, A61K31/4375, A61P9/00,
出願人(氏名又は名称) 旭化成ファー	ーマ株式会社
X 第 I 欄 見解の基礎	3新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
際予備審査機関がPCT規則66.102(b) の規定に基づい ない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この	調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 て国際調査機関の見解審を国際予備審査機関の見解審とみなさ 見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。 みなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日か る期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当 る。
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照 3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	
3. さらなる詳細は、様式PC1/13A/220の編みを	
`見解審を作成した日 14.03.2005	4P 9167
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 原田 隆興
郵便番号100-8915 東京都千代田区假が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3492

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

楓 見解の基礎	
	下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。
_	*****・*******************************
それは国際語	t、
この国際出願で 以下に基づき見	開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、 解書を作成した。
. タイプ	配列表
,	配列表に関連するテーブル
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
<i>. フォー</i> マット	□ コンピュータ読み取り可能な形式
	コンピュークがの以りつからルベ
,提出時期	出願時の国際出願に含まれる
-	□ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
	── 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
□ さらに、酢 た配列がb	
た配列がしあった。	記列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出 が、 、
た配列がしあった。	
た配列がしあった。	記列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出 が、 、
た配列がよあった。	記列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出顧時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出 が、
た配列がよあった。	記列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出顧時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提 。
た配列がよあった。	記列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出顧時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出 が、
た配列がよあった。	記列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出顧時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出 が、

国際調査機関の			
第V欄 新規性、進歩性又は産業上の それを裏付る文献及び説明	の利用可能性についてのPC	T規則43の2.1(a)(i)に定める	5見解、
1. 見解			
新規性(N)	請求の範囲 <u>1-4</u> 請求の範囲		有
進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲 <u>1-4</u>		·有 無
産業上の利用可能性(IA)	請求の施囲 <u>1-4</u> 請求の範囲		有 ————————————————————————————————————
2. 文献及び説明			
1986 1986 1986 1986 1986 1987 1987 1987 1987 1987 1986 1987	0 年 2 1 年 1 名 2 1 年 1 2 1 年	で引用された文献1- するイソキノリン誘うであることでなるを含んでなる疾患に ・1を協血管系疾患に ファスジル(fasudi デ系ーの・ デ系ーの・ が、されれる。 がおり、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは	(60) et al) - 3によって、はまる。 はいののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、等のでは、等のでは、

発信人 日本国特許庁(国際調査機

発信人 日本国特計厅(国际网里6000万	
出願人代理人	REC'D 3 1 MAR 2005
藤野 清也	WIPO BAT
様	
あて名	PCT
〒 105−0001	国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2)
東京都港区虎ノ門2ー7ー7	(佐属1)が30分40人・22/ (PCT規則43の2.1)
虎ノ門中田ビル4階	
	発送日 (日. 月. 年) 29. 3. 2005
	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
出願人又は代理人 の書類記号 ASAHI-49	, A MANAGER TO A MANAGEMENT AND A MANAGE
国際出願日	優先日
国際出願番号 PCT/JP2005/001102 (日.月.年) 27.	01.2005 (日.月.年) 29.01.2004
101/11/11/11	A61K31/4375, A61P9/00,
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' C07D401/12	, AVIMOI, II
A61P43/00	
出願人(氏名又は名称)	W 5041
旭化成ファ	一マ株式会社
1. この見解書は次の内容を含む。	
1. この見解者は次の行行をもしる。	
一	
第1個 愛児福 第2世 第1個 第1世、進歩性又は産業上の利用 1	「能性についての見解の不作成
1	•
	る新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
それを裏付けるための文献及び説明	1
第VI欄 ある種の引用文献	
第VII欄 国際出願の不備	
第四欄 国際出願に対する意見	
際予備審査機関がPCT規則66.102(b)の規定に基づい かいにも国際事務局に通知していた場合を除いて、この	調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 で国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解者とみなさ り見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書と	: みなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日か - る期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当
な場合は補正哲とともに、各升音を促出することが、	. •••
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照	
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	を参照すること。
0. C 9.6 @ 01/1/20-20 12-	
見解審を作成した日	
1.4. 03. 2005	4P 916·7
名称及びあて先	特許庁審査官(権限のある職員) 原田 隆興
日本国際許庁(ISA/JP)	
1 郵価発長100-8915	電話番号 03-3581-1101 内線 3492
東京都千代田区隠が関三丁目4番3号	танн ж ч

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

一 ,								
[欄 見解の基礎			····					
	記に示す場合を除くに	まか、国際出版	願の言語を基礎	造として作成	された。			
		##) - b = ###	如立を基礎と	して作成した				
この見解書は、	をのために提出された	一路による研 PCT規則は	訳又を超過こ 2.3及び23.1(l)にいう翻訳	。 文の言語では	うる。		•
それは国際約3	生のために延出された	.1 () 1 /////						
			~	カレナチドV	カロアミノ酸酢	記列に関し	て、	
この国際出願で開	示されかつ請求の範疇	担に係る発明	化不明久な人	,,,,,				
以下に基づき見解	皆を作成した。							
a. タイプ	□ 配列表							
	「一 おが事に関連	車するテーブル	iv ,			,		
	L BLOOKICKE							
				•				
b. フォーマット	上							
	コンピュータ	タ読み取り可	能な形式					
•					•			
+8 山地州	川顧時の国	祭出願に含ま	れる		•			
c. 提出時期				あり可給か事	※式により提り	出された		
			ピュータ読み			-,-,		
		調査のために	・この国際調	査機関に提出	出された	•	•	
•	1 144 BB 336 17 1							
た配列が出	出願後に、 列表又は配列表に関連 願時に提出した配列と				:201 = 4月1日1 十	∟配列若し と含まない	くは追加 旨の陳述	Dして提出 監書の提出
3.					:201 = 4月1日1 十	<u>-</u> 配列若し と含まない	くは追加 旨の陳述	pして提出 監書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	±配列若し ≥含まない	くは追加 旨の陳辺	pして提出 上書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	□配列若し ≥含まない	くは追加官の陳並	□して提出 【書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	⊏配列若し ≥含まない	くは追加 旨の陳並	□して提出 監書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	上配列若し と含まない	くは追加 旨の陳刘	りして提出 企書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	≟配 列若し ≿含まない	くは追加 旨の陳刘	□して提出 監書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	上配列若し と含まない	くは追加 旨の陳刘	□して提出 監書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	r配列若し r含まない	くは追加 旨の陳刘	□して提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	上配列若し と含まない	くは追加	□して提出 広書の提出
た配列が出					:201 = 4月1日1 十	上配列若し と含まない	くは追加	□して提出 正書の提出
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列寮又は配列表に関連 願時に提出した配列 と	車するテープ 上 同一 である	ルを提出したな 旨、又は、出	易合に、出願 演時の開示を	後に提出した		· ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列寮又は配列表に関連 願時に提出した配列 と	車するテープ 上 同一 である	ルを提出したな 旨、又は、出	易合に、出願 演時の開示を	後に提出した		· ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列寮又は配列表に関連 願時に提出した配列 と	車するテープ 上 同一 である	ルを提出したな 旨、又は、出	易合に、出願 演時の開示を	後に提出した		· ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列寮又は配列表に関連 顧時に提出した配列と	車するテープ 上同一である	ルを提出した ^対	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列寮又は配列表に関連 顧時に提出した配列と	車するテープ 上同一である	ルを提出した ^対	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列寮又は配列表に関連 顧時に提出した配列と	車するテープ 上同一である	ルを提出した ^対	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列表又は配列表に関連 願時に提出した配列と	車するテーブ と同一である	ルを提出した ^t 旨、又は、出	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列表又は配列表に関連 願時に提出した配列と	車するテーブ と同一である	ルを提出した ^対	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列表又は配列表に関連 願時に提出した配列と	車するテープ。 と同一である	ルを提出した ^t 旨、又は、出	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
- た配列が出 あった。 4. 補足意見:	列表又は配列表に関連 願時に提出した配列と	車するテープ。 と同一である	ルを提出した ^t 旨、又は、出	易合に、出願 類時の開示を	後に提出した			

四	7071 4
RV欄 新規性、進歩性又は産業上 それを裏付る文献及び説明	の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
CAUCACIT BUCKETO TO THE	
1. 見解	
	有
新規性(N)	請求の範囲 <u>1-4</u>
	請求の範囲
•	
進歩性(IS)	請求の範囲
: · ·	前水の地田 エーユ
	有
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-4 請求の範囲 無
	BY ACCOUNTS
2. 文献及び説明	
文献 1	
JP 61-22	7581 A,(旭化成工業株式会社),
4000 10	\cap 0
特許請求の範囲、	の 5 産業上の利用分野、第2頁右下欄化合物 (1)
JP 61-15	2658 A, (旭化成工業株式会社),
1986.07.	11
	産業上の利用分野、第5頁左上欄化合物(60)
文献3	((Flaine S Krul et al)
US 2003/	162824 A1, (Elaine S. Krul et al)
2003.04.	28、特許請求の範囲
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	4150107
(1)請求の範囲1	-4について は、国際調査報告書で引用された文献1-3によって、進歩
請求の範囲1一4	は、国际関連が自己(リル)
を有しない。	には、スルホン基を有するインキノリン誘導体が、血管拡張剤
1	
ら な 症 が 会 ま れ る こ に な い た に は い れ る な は に は い れ る な に は い れ る な は に は れ る な は に は れ る な は に は れ る な は に は れ る な は に は れ る な は に は れ る な は に は れ る な は は は は は は は は は は は は は は は は は は	が記載されており、心臓血管系が高されていていた。 こと、当該方法には、ファスジル(fasudil)等の血管拡張剤を
併用し得ることこと	が記載されている。
係るものであって、	或の発明は、心臓血管系殊感の子が出版とでラスに 文献3の記載から、同一の薬が、心臓血管系疾患の一つであ なは3の記載から、同一の薬が、心臓血管系疾患の一つであ
1	- 1 1. IO 10 10 7 10 7 11 MELL AT 11 AVAILABLE VILLED ON VILLE LA
は予防に使用する、	ことによって、請求の範囲エーなに所る元列をサベーニー
にとって容易であ	১.